シンポジウム

激動の時代と学問・思想

―戦中・戦後の大阪市立大学と恒藤 恭―

恒藤 恭（1957年卒業アルバムより）

2009年の「恒藤恭（つねどうきょう）と芥川龍之介―時代と対峙した二つの知性―」、2010年の「恒藤恭の思想と学問の発展―文学青年から社会科学者へ―」、2011年の「近代日本の都市と大学―創設期大阪市立大学と恒藤恭―」という3回のシンポジウムを受け、戦中から戦後という時代の中で激動する大学や学問に対し、恒藤恭がどのように対応したのか、同時代の恒藤の論説や文学作品を通じて、その独自の立ち位置を明らかにする。ひろく関心のある皆様のご参加をお待ちします。

報　告

広川　禎秀（大阪市立大学恒藤記念室特任教授・名誉教授）

「恒藤恭の時代認識と進歩への希願」

上田　博（明治文芸研究者）

「恒藤恭の戦後の感情風景」
―〈少年の眼〉の位置―

コメント

久野譲太郎（大阪市立大学恒藤記念室研究員）

村田　正博（大阪市立大学文学研究科教授）

司　会

桐山　孝信（大阪市立大学副学長）

飯吉　弘子（大阪市立大学大学教育研究センター准教授）

12月1日（土） 2012年（平成24年）

午後1時～4時30分（開場　12:30）
大阪市立大学　学術情報総合センター10階
大会議室

★入場無料★
申し込み不要

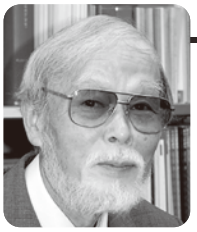
問い合わせ先／大阪市立大学<杉本キャンパス>
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
大学史資料室　tel :(06)6605-3371/fax :(06)6605-3372
学術情報総合センター　tel :(06)6605-3211/fax :(06)6605-3218

■主催　大阪市立大学 大学史資料室／恒藤記念室

プロフィール（登壇順）

広川　禎秀（ひろかわ　ただひで）

大阪市立大学恒藤記念室特任教授、大阪市立大学名誉教授。文学博士。
日本近現代史を研究。『恒藤恭の思想史的研究』（大月書店、2004年）など、恒藤恭の思想史的研究をおこない、近作に「恒藤恭の思想と学問の発展－文学青年から社会科学者へ－」（『大阪市立大学史紀要』第4号、2011年）がある。長く大学史資料室長を務め、恒藤記念室の資料充実に尽力した。大学史資料室編『向陵記－恒藤恭 一高時代の日記－』（大阪市立大学、2003年）の編集・刊行では中心的役割を果たした。



上田　博（うえだ　ひろし）

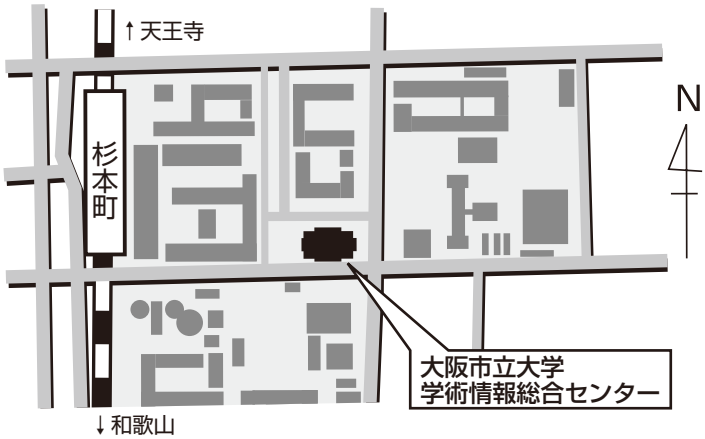
明治文芸研究者　文学博士。
日本近代文学を研究。橘女子大学助教授、立命館大学教授などをつとめた。石川啄木、与謝野晶子の研究で知られる。『尾崎行雄：「議会の父」と与謝野晶子』（ 三一書房、1998年）、『別離（若山牧水）』（ 明治書院、2000年）、『「職業」の発見』（共編著、世界思想社、2009年）ほかの著作がある。本プロジェクトでは、「『世界民の愉悦と悲哀』ふたたび」（『大阪市立大学史紀要』第4号、2011年）などの論考を発表している。

久野　譲太郎（くの　じょうたろう）

同志社大学大学院博士後期課程在籍。大阪市立大学恒藤記念室研究員、同志社大学人文科学研究所嘱託研究員。文学修士。
近代日本思想史を専攻。恒藤恭の思想史的研究を行い、「『総力戦体制』下の恒藤法理学－『統制経済法』理論をめぐって－」（『ヒストリア』231号、2012年）などを発表。本プロジェクトでは、『恒藤記念室叢書』第2集（2012年）で、「恒藤恭滝川事件関係資料」の翻刻・編集を行うとともに、「解題」および論文「『死して生きる途』生成の論理－『恒藤恭ノート』（一九三三年四・五月）を手がかりとして－」を執筆した。

村田　正博（むらた　まさひろ）

大阪市立大学大学院文学研究科教授。文学博士。
国文学を専攻。主著『萬葉の歌人とその表現』（清文堂出版、2003年）など、万葉集の研究で知られるが、研究の関心は広く近現代にまでおよび、「子規初学―和歌史再生その前夜―」（『文学史研究』第46号、2006年）、「子規開眼（一）―橘曙覧遺稿『志濃夫廼舎歌集』をめぐって―」（同誌第48号、2008年）などの論考がある。本プロジェクトでは、芥川龍之介の恒藤宛年賀状の漢詩を分析した「年賀の詩ふたつ－明治四十五年芥川龍之介の推敲－」（『大阪市立大学史紀要』第3号、2010年）がある。



アクセス：JR阪和線「杉本町（大阪市立大学前）駅」下車、東へ徒歩約5分
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車4号出口より南西へ徒歩約20分